

運転室内の報知・警報音の決定法の提案

斎藤綾乃 安部由布子 鈴木綾子 瀧本友晴 西本嗣史

運転室内の報知・警報音の決定法を提案しました。設計者へのヒアリングおよび乗務員アンケートに基づき、伝えたい情報の重要度を、事故に結びつく可能性の程度(危険性レベル)で4段階に分類し、各カテゴリの判断目安を作成しました。そして、音の聴取実験(図)で得られた運転士の音の感じ方を基準に、各危険性レベルに音サインやボイスを対応させて、使用すべき音の目安を示しました。運転室の報知・警報音を統一した考え方で提示することによって、音から直感的に危険性レベルを認識できるようになり、伝えたい情報を混乱なく運転士に伝えることができるものと考えられます。



図 音の聴取試験設定